

佐渡米通信

こめへる

2025年 7 月号

発行日:2025年7月

発行：佐渡農業協同組合 担当：総務部企画総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snw.ocn.ne.jp

JA佐渡総代会開催 -適正な米価をと生産者の声-

JA佐渡では5月下旬に通常総代会を開催しました。各地域の組合員の代表が集まり昨年度の総括と今年度のJA佐渡としての取り組みについて提案を行い、採択されました。出席者からは米農家が安心して生産し続けられるよう、適正な米価の実現に向けた働きかけを求める意見があがりました。米以外の作物についても意見や懸念事項を頂いたため包括的な方針の策定と早急な具体策が求められていることを改めて認識させられる会合となりました。

今年度の出荷契約を取り纏めたところ、出荷見込み数量は数%の減少にとどまりました。JA佐渡では引き続き集荷結集運動を行い、品質・生産量の維持のための営農指導に努め、情報発信を通したブランド力の向上に取り組んで参ります。



米の話題で盛り上がったJA佐渡総代会



JA佐渡職員と出荷契約を確認する生産者

佐渡の米農家さんにインタビュー

相川地区戸地集落の山本真佐夫さん、聡美さんご夫妻にインタビューさせて頂きました。山本さんは5割減栽培コシヒカリの他に飼料用米、飼料用稲等を作っています。畜産が盛んな地域のため牧草作りに転用している田んぼも周辺に見られました。同集落では、新潟県の名水に選ばれた戸地川からの水を田んぼに引いているそうです。水量も多く、これまで水の心配をしたことがないとのことで、説明してくれた聡美さんからは戸地川の恵みへの感謝が伝わってきました。インタビューをしていると山本さんご夫妻のように自然への畏敬の念を抱いている生産者の方が多いと感じました。

真佐夫さんは、定年退職を機に集落の方たちの声に応じて専業農家となり、昨年から戸地営農組合の代表を務めています。構成員は17名で、最近2名の若い方が新たに加わったそうで、法人にして良かったと嬉しそうにご夫妻で話されていました。毎年耕作面積を見直し、農地集積をして効率化を進めているそうです。

昨今、主食用米が不足しているのではないかとニュースなどで耳にしますが、非主食用米は畜産農家と米農家双方にとって重要な作物です。JA佐渡では需要と生産能力を総合的にふまえた情報提供と営農指導を行って参ります。



田植え後きれいに活着した田んぼを背にする山本ご夫妻



JA佐渡水稻担当者と生育具合について話が膨らむ



草刈りの手を止めて集合してくれた柿仲間のみなさん



佐渡の特産品「おけさ柿」の摘蕾作業の説明をしてくれる聡美さん

- 温湯消毒
- 春耕転
- 苗づくり
- 田植え
- 水管理
- 中干し
- 穂肥
- 稲刈り
- 秋耕転
- ふゆみずたんぼ



facebook



instagram



JASADOTANBO